

1、開会のあいさつ

谷先生より

2、筒井先生よりあいさつ

第6回学会に関して感謝の言葉

3、報告

① 各支部一括報告

倉田先生より会報7号頁8から各支部の活動報告

② 咬合治癒の道 講演会報告

飯田先生より12月6日 北九州において参加者170名にて盛会に開催された旨報告

③ 会計報告

担当 植野先生 秋元様より詳細の報告

会計処理を会計事務所に頼んでいたが、18万円の経費がかかるので秋編集事務所にて行うことにした。

会報頁8より昨年より460多い 450少ないなど意味なし

25年度 26年度 27年度 この3年間 平均に対してどうだったか

経営収入で246万円減少 事業収入313増

頒布品が新しいものができた年は収入が増える。販売と仕入れにほとんど差がない

支出239減 事業が増えて管理が減

正味財産137増

会計監査は小川先生、矢野先生に確認済み

お金が137万円増えています。財産が増えると各支部に戻すことをしているが今季は戻せるか各役員の判断を仰ぐ

4、協議

①スタディーグループ筒井塾の件

筒井祐介先生より発足する趣旨の説明

新規会員がどの部門に所属したらいいかわからない

コース受講した先生もどのようにしたらいいか困っている

咬合療法 JACDの会員数も横ばい

筒井塾を受講した後 入会しにくい

以上のような問題、しくみを変えるため また解消するための受け皿としてスタディーグループ筒井塾を発足してはどうか

お金を上納していくシステムは変えて 上で集めて分配する。この機能をを持った組織

作りをしたい。

西林先生

組織図から咬合療法研究会の名称と咬合療法部会など呼び方がはっきりしていない。

名称もすっきりさせた方が良いのではないか。

筒井祐介先生

現在はJACD、咬合療法研究会とも保証されており、両方に会則が存在する

このことがかえって混乱の元になっている。現在この問題は思案中であるが、

筒井塾の受講の後に学会に突然入会というのはハードルが高いので、まずスタディーグループとして咬合療法研究会 JACDという存在があった方が受け皿になりやすいのではないか。

筒井照子先生

2つのグループが合体したことでとても混乱してしまっている。そろそろ中身を整理する必要があると考えている

谷先生

この場では具体的には決められない

木下先生

2月の話し合いでは包括学会に関しては受講生以外からも入会してもらおうということもあった

筒井祐介先生

明日の包括役員会で発足へ向けた具体化への可否を決を採りたい。

倉田先生

咬合療法ができて12年、学会は発足5年で ある程度のコンセンサスはできている。

発足の具体化についてこの案を咬合療法部会として承認していいのではないか

形を決定する委員会を設立して1年くらいの期間で形を決めていく

咬合部会として倉田先生の意見に賛成か決を採った

スタディーグループ筒井塾の発足の具体化について賛成多数にて承認された

谷先生

専門委員会を作ることでこの事案はお願いしたい

明日の包括役員会にてこの事案を報告する

②咀嚼運動勉強会の件

倉田先生より勉強会を発足する趣旨の説明

咬合面形態を理解するには咀嚼運動にもっと理解が必要と考える

咀嚼運動に関して部会として勉強を深めていきたい

筒井照子先生

咬合面形態は歯科医として原点な部分であるが一番伝わりにくい アドバンスな部分である。

多人数の講義だけでは伝わらない、歯科界に残された原点な部分なので十分に勉強してほしい。

心してかかれないと形骸化する

平野先生

今から形にしていくうえで、できれば関西で開催してほしい。西からも東からもいきやすいところにしてほしい。

あまり間口を広げずに少数精鋭で、自分で苦勞してものにするように、形骸化しないように。

アドバンスコースでやっているようなことをイメージして

倉田先生

筒井先生 平野先生のお言葉を受け止めてしっかりと内容を進めていきたい

咀嚼運動勉強会の発足について 会場の賛成多数で可決された。

④ その他

第6回包括歯科臨床学会の進捗状況を九州支部第6回実行委員長の坂田先生より報告

開催は2017年9月2日3日 1 Day halfで行う

場所は電気ビル3F4F

テーマ「全身と口腔の調和を求めて～Global Standard への挑戦～」

なるべく経費がかからないように、筒井昌秀先生がお亡くなりになって10年の節目であることもあり「筒井昌秀賞」を設ける

咬合療法九州支部 JACDの先生方と一体となってやっていく

九州は遠方なので参加者の確保を役員会員皆様をお願いしたい

閉会のあいさつ

藤田亨先生より第5回学会へのご協力への感謝の言葉と 今回の学会でのブースへお立ち寄りをお願いして閉会

作成 大山繁幸

平成28年8月27日 小川晴也